



部局名	農政水産部
	<p>○世界農業遺産「琵琶湖システム」の徹底活用</p> <p>琵琶湖システムInstagramフォロワー数 1,500人以上 (R3年度末 150人、R4年度末 950人)</p> <p>目標： 琵琶湖システム ロゴマーク利用累計数 200件以上 (R3年度末 92件、R4年度末 156件)</p> <hr/> <p>○県育成新品種 近江米「きらみずき」、イチゴ「みおしずく」のブランド化推進</p> <p>「きらみずき」の作付拡大および安定生産技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニック栽培での収量 480kg/10a (実証ほ) ・化学肥料や殺虫殺菌剤を使用しない栽培での収量 540kg/10a (実証ほ) <p>目標： ・作付面積 R5：55ha ➡ R6：500ha</p> <p>県内一産地化に取り組む「みおしずく」の栽培面積の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4：0.2ha ➡ R5：1.0ha <hr/> <p>○「やまの健康」と一体となった中山間振興</p> <p>目標： ・多様な主体との連携・協働により地域資源を活用した取組を行う地区数 累計25地区 (R4 19地区)</p> <p>・県北部で実施するワークショップや農作業体験等「農山村版ワーキングホリデー」を通して農山村と将来的に関わりたいと感じた高校性・大学生の割合 8割以上</p> <hr/> <p>○滋賀食肉センターのあり方の検討</p> <p>目標： 滋賀食肉センターにおける公平・公正な取引、適正な運営に向けた関係者との対話の推進</p> <hr/> <p>○県内漁協の県一漁協合併への推進</p> <p>目標： 滋賀県一漁協合併検討協議会が目標と掲げている令和5年度内の合併および包括承継が達成されるよう支援する。</p> <hr/> <p>○農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進</p> <p>目標： 農産物の高付加価値化や農地のさらなる集積等、担い手の経営環境と所得の向上を目的とした基盤整備事業に新規着手する集落数 累計120集落</p> <hr/> <p>○CO₂ネットゼロにも資する堆肥等の地域内循環システムの構築と推進</p> <p>目標： モデル的な仕組み創設に向けた調査および検討の実施</p>



所属名	農政課
R5年度に特に注力する事項（目標）	○世界農業遺産「琵琶湖システム」の徹底活用 目標： 琵琶湖システムInstagramフォロワー数 1,500人以上 (R3年度末 150人、R4年度末 950人) 琵琶湖システム ロゴマーク利用累計数 200件以上 (R3年度末 92件、R4年度末 156件)
	○CO ₂ ネットゼロに向けた未利用バイオマス活用促進に向けた調査・研究の推進 目標： CO2ネットゼロの実現に向けて、部内若手職員を中心に新たな着想に立ち、4つの項目（生産技術の開発、資源の地域内循環、消費者の行動変容、事業者の取組推進）について調査・研究を行う。
	○【見直し・効率化】部次長協議におけるペーパーレス化の徹底 目標： 予算、常任委報告案件、答弁等の部次長協議を原則ペーパーレス化する。

所属名	みらいの農業振興課
R5年度に特に注力する事項（目標）	○県育成新品種 近江米「きらみずき」、イチゴ「みおしずく」のブランド化推進 目標： 「きらみずき」の作付拡大および安定生産技術の確立 ・オーガニック栽培での収量 480kg/10a（実証ほ） ・化学肥料や殺虫殺菌剤を使用しない栽培での収量 540kg/10a（実証ほ） ・作付面積 R5：55ha ➡ R6：500ha 県内一産地化に取り組む「みおしずく」の栽培面積の拡大 ・R4：0.2ha ➡ R5：1.0ha
	○人と農地のみらいを考える地域計画の推進 目標： 地域計画が策定された地域の集落数（令和5年度末）600集落
	○【見直し・効率化】普及指導の効率的な推進のための見直し 目標： 普及指導計画の様式の簡素化



所属名	畜産課
R5年度に特に注力する事項（目標）	○三方よしの「近江牛生産」の推進（選ばれる近江牛づくりチャレンジ支援） 目標： <ul style="list-style-type: none">・コンセプトブックとロゴマークを作成しPRを推進・団体等が自ら行う先進的かつモデル的な取り組みの支援（3団体）
	○生産基盤の強化 目標： <ul style="list-style-type: none">・近江牛の飼養頭数の拡大 R5：15,750頭（R3実績：15,316頭）・キャトル・ステーションの運営効率化に向けた検討を推進
	○物価高騰等に対する畜産経営の支援 目標： 飼料価格高騰に伴う緊急支援、自給飼料の安定確保に向けた取組支援
	○滋賀食肉センターのあり方の検討 目標： 滋賀食肉センターにおける公平・公正な取引、適正な運営に向けた関係者との対話の推進
	○近江牛のブランド力の向上と魅力発信 目標： 商工・観光業と連携しながら、県内外への魅力発信、近江牛取扱い店舗の拡大に向けた取組の推進 R4：207店舗 → R5：210店舗
	○【見直し・効率化】協議の効率化 目標： 協議資料は可能な限り事前配布とし、議論からのスタートに努める。 メリハリのある業務遂行のため、的確な指示と助言に努める。



所属名	水産課
R5年度に特に注力する事項（目標）	○県内漁協の県一漁協合併への推進 目標： 滋賀県一漁協合併検討協議会が目標と掲げている令和5年度内の合併および包括承継が達成されるよう支援する。
	○世界農業遺産を活用した湖魚の消費拡大と新たな流通モデルの構築 目標： セールスマン活動を通じた需要の掘り起こしと、漁業組織が取り組む流通モデルの実践等により、湖魚に触れる機会を創出する。
	○琵琶湖の生産力を最大活用する「新たな水産資源管理」の推進 目標： 資源管理を強かに推進するため、「滋賀県資源管理方針」を策定し、漁業者が定める「資源管理協定」の締結を指導する。
	○【見直し・効率化】ビワマス遊漁承認制度のDX 目標： 事務の効率化および迅速な採捕状況の把握による適切な資源管理を両立するため、遊漁者の採捕報告の5割をオンライン化する。
	○水産基盤整備事業の見直し 目標： シジミ資源の回復を目的に砂地造成と造成箇所の管理に活用するため、シジミ増産効果を向上・安定させる条件を明らかにする。



所属名	耕地課
R5年度に特に注力する事項（目標）	○農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進 目標： 農産物の高付加価値化や農地のさらなる集積等、担い手の経営環境と所得の向上を目的とした基盤整備事業に新規着手する集落数 累計120集落
	○地域農業の発展を支える農業水利施設アセットマネジメントの推進 目標： 効率的な農業用水の配分や、新技術導入によるエネルギー効率向上により、CO2削減にも資する施設の保全更新に着手する農用地面積 累計29,000ha
	○【見直し・効率化】クラウドサービスを活用した事務のDX化 目標： 出先機関とのデータ送受、情報集約・共有にかかる事務を効率化するためクラウドサービスの活用を検討する

所属名	農村振興課
R5年度に特に注力する事項（目標）	○「やまの健康」と一体となった中山間振興 目標： ・多様な主体との連携・協働により地域資源を活用した取組を行う地区数 累計25地区（R4 19地区） ・県北部で実施するワークショップや農作業体験等「農山村版ワーキングホリデー」を通して農山村と将来的に関わりたいたいと感じた高校性・大学生の割合 8割以上
	○世界農業遺産の活用による魚のゆりかご水田の推進 目標： ・生産者によるSNSや直売所等での魅力発信を通じた認知度向上 R5：約70%（R4：63%） ・魚のゆりかご水田米の認証面積の拡大 R5：130ha（R4：107ha）
	○「CO2ネットゼロヴィレッジ構想」によるエネルギーの地産地消の推進 目標： ・セミナー開催による構想の普及啓発 6地域（各管内） ・エネルギーの地産地消に向けたワークショップ開催 1回
	○災害に強い農村地域づくりに向けた総合的な防災・減災対策の推進 目標： 「滋賀県ため池中長期整備計画」に基づくため池防災工事の加速的な推進 ・防災重点農業用ため池の耐震・劣化評価の実施割合 耐震調査 78%、劣化評価 80%（R4：71%、60%）
	○【見直し・効率化】クラウドサービスを活用した事務のDX化 目標： 出先機関とのデータ送受、情報集約・共有にかかる事務を効率化するためクラウドサービスの活用を検討する